

地域活性化に関する学生及び住民ニーズの分析 —白山駅～白山浦（白山市場）～学校町通り周辺の学生および住民調査から—

キーワード：地域活性化、住民、学生、ニーズ、まちづくり

○李在億、平川毅彦
新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科

I 目的

本研究は、地域の特性を活かしながらよりにぎやかで安全に過ごせるまちづくりをしていきたいと考え、「白山駅～白山浦（白山市場）～学校町通り」の地域住民と学生の現状意識およびニーズを調査し今後の取り組みの方向性を検討した。

II 方法

調査対象は「白山駅～白山浦（白山市場）～学校町通り」周辺の高等学校（4校）および大学（1校）の学生を対象にアンケート調査を行った（調査票配布、無記名自記入後回収）。また、住民調査は鏡淵小学校区の居住者（全2702世帯）を対象とした。調査対象者の抽出・回収は鏡淵小学校区コミュニティ協議会が行った。自治会長・町内会長、合わせて20名に回覧板に添付し調査票を配布した。記入は世帯主に依頼し、各自治会長・町内会長が回収した。調査期間は2011年6月～12月。主な調査項目は、「白山駅～白山浦（白山市場）～学校町通り」の街、「白山市場」、街の「憩いの場」について等である。

倫理的配慮としては、対象者に調査の目的、調査への参加は自由意思によること、調査目的、結果を公表することを文書および口頭で説明し、同意を得た。

III 結果

1. 学生：高等学校から1047件、大学から293件の回答があり、有効回答数1340件であった。住民：回答件数1029件（有効回答率38.0%）であった。

2. 「白山駅～白山浦（白山市場）～学校町通り」のまちに対する、学園の街というイメージの有無について、学生（高校生や大学生を合わせて以下学生と表記）は「あまりそう思わない35.8%」と「まったく思わない21.0%」を合わせると約5割以上であった。住民は「あまりそう思わない39.8%」、「まったく思わない10.0%」を合わせると49.8%であった。

3. 「白山市場」の認知度について、住民は「よく知っている66.1%」が最も多く、「ある程度知っている27.6%」を合わせて約9割を超えた。一方、学生は「ほとんど知らない32.0%」と「まったく知らない31.7%」を合わせると約6割以上であった。今現在、白山市場に足りないものについて、最も多かったのは、学生は「利用しやすい雰囲気づくり58.8%」、

住民は「無料駐車場40.1%」であった。また、両者ともに「市場に関する案内や情報」（学生33.8%、住民36.1%）と「野菜や果物、漬物、花、鮮魚等以外の食べ物」（学生14.1%、住民29.1%）を次に挙げていた。

4. 「憩いの場」として、まちに気軽に使用できる場所がある場合の利用について、学生は「ややそう思う33.3%」が最も多く、「そう思う26.1%」を合わせると約6割以上であった。住民は「そう思う40.7%」が最も多く、「ややそう思う24.5%」を合わせると学生と同様6割以上を占めた。また、利用したい「憩いの場」の種類について、学生は「飲食しながら、友人と話ができる場所78.3%」が、住民は「健康増進のための場所46.6%」が最も多かった。

IV 考察

地域に対する地域住民と学生の現状認識およびニーズ等が明らかになった。学生と住民の相違は、住民にとって地域は生活拠点であるが、学生は主に通学路として利用していることによる。従って、各世代のニーズに応えつつ、世代を越えて地域でつながれるような新たな取り組みが求められる。今後は場についての情報発信、利用しやすい雰囲気・空間づくり、ニーズを反映した出店などが課題になると考えられた。

V 結論

地域活性化に向けて、通学等で利用する学生と生活を営む地域住民が共通して利用できる憩いの場を設け、住民と通学者の交流を図ることが重要と考えられる。地域の特性を活かしながら学生と地域住民それぞれの生活をより充実させることができ、かつ、世代がつながるようなまちづくりへの努力が必要である。

引用文献

- 田村三智子. 地域住民のネットワーク形成に関する一考察. 沖縄大学法経学部紀要. 2007;9:15-21.
松尾哲子・村田厚生. 在宅高齢者のケアと商店街活性化を考慮したまちづくりの提案. 日本経営工学会論文誌. 2011; 62(4):190-203.
三木脩平・谷明彦. 地域住民との協働によるまちづくりに関する研究. 日本建築学会北陸支部研究報告集. 2010;53:603-606.